

豊臣秀吉



*右田毛利家文書貴14(7)「豊臣秀吉朱印状」。本文は「あんしん(音信)として、文こと(殊)にかひき(海気)五まき(巻)たうらい(到来)。よろこひ(喜び)おほしめし(思し召し)候。なを(猶)かうさうす(孝蔵主)申すべく候。かしく」

解説

全国統一を目前にしながら倒れた織田信長の後継者が、豊臣秀吉(1537~98)です。1585(天正13)年四国の長宗我部氏を降した秀吉は朝廷から関白に任じられ、「豊臣」姓を名乗りました。そして、天皇から日本全国の支配権を委ねられたと称し、惣無事(全国の平和)を呼びかけて全国統一事業を進めました。1587(天正15)年に九州の島津氏を、ついで1590(天正18)年関東の後北条氏と奥羽を平定して、ついに全国を統一しました。こうして、低い身分に生まれながら、「天下人」にまで上り詰めた秀吉は、成功物語の主人公として語り継がれ、今なお大阪を中心に「太閤さん」として人気があります。

写真は、秀吉が手紙や海気(絹織物)が届いたことを喜ばしく思う旨を伝えた礼状です。宛名の「あきの五もし」とは、「安芸国にいる娘」という意味で、かつて秀吉の養子の妻であった女性(毛利輝元の従姉妹)と考えられています。天下人の秀吉から親しく呼びかけられて、彼女もうれしかったのではないのでしょうか。秀吉が多くの人々に支持された理由の一つとして、人情家で、人を魅了する性格であったことがあげられます。この資料もそういった彼の性格の一端を表すものでしょう。

*当館には、豊臣秀吉の出した文書として、穴戸家文書巻1(11)、三浦家文書甲5(108)、右田毛利家文書貴7(13)、同8(16)、同14(4)~(6)、村上家文書272・273などがあります。